

土筆(つくし)誰の子？



2012年4月15日



2012年4月22日

4月15日(日)、三杉川近くの土手は、**土筆(つくし)**で覆われていた。「これ、花粉症に効くんですよ。家で食べてみます。」生物部部長のYくんの一声で、部員たちもつられて土筆を採り始めた。

春になると顔を出す土筆(つくし)。でも、土筆が成長して巨大になったという話は聞いたことがない。タケノコが育って竹になるのとは訳が違っているのであるが、似ている所がないわけではない。土筆もタケノコも**地下茎**で本体とつながっている点である。右上の写真は1週間後の土手の様子で、土筆の周りで成長しているのが、土筆の本体「**スギナ**」(**シダ植物**)である。

土筆はスギナの地下茎から伸びてきて、先端の穂から「孢子」を飛ばすので「**孢子茎**」と呼ばれている。しばらくすると、地下茎から緑色の「**栄養茎**」が伸びてくる。茎と葉からなり光合成を行うのだ。この姿形がスギの樹形に似て見えることから、スギナ(杉菜)と名付けられている。しかし、本当に「土筆はスギナの子」と言えるのだろうか？むしろ「土筆はスギナそのもの」ではないか。

ところで、土筆の味はどうだった？…1週間後、部長に聞いてみると、食べる前にカビが生えてしまったそうだ。ちなみに、ネットでは**100g(80本くらい)480円**で販売されていた。天ぷらや佃煮、つくしご飯、ガーリック炒めなどにすると「ほろ苦い大人の味」が楽しめるそうだ。

